

# かがはし

じょうえつ市議会だより

## 市民に身近な議会へ

上越市議会の新体制決まる

上越市議会  
ホームページ



# 市民に身近な議会を目指して

― 上越市議会の新体制決まる ―

5月20日に臨時会を開会し、正副議長の選出をはじめとする議会人事を決定しました。

会派構成などの  
詳細はこちら



◎は委員長、○は副委員長

## 正副議長

上越市議会議長・副議長の就任に当たり、ご挨拶を申し上げます。

市議会の代表として中立公正な職務遂行に努め、この重責を果たしてまいります。

市民から更に信頼され、市民生活に身近な議会を目指すとともに、市民の多様な意見や議員間の自由な議論を通じて当市の課題を的確に把握し、市政に反映させるよう尽力する所存です。



議長

石田 裕一  
いしだ ゆういち

副議長

渡邊 隆  
わたなべ たかし

## 総務常任委員会

担当

市政の運営方針や財務、防災、総合事務所などに関すること。



◎滝沢 一成  
たきざわ いっせい



○高山 ゆう子  
たかやま こ



やすだ かよ  
安田 佳世



みやざき ともこ  
宮崎 朋子



くりた ひであき  
栗田 英明



えぐち しゅういち  
江口 修一



はしづめ のりかず  
橋爪 法一



いしだ ゆういち  
石田 裕一

## 厚生常任委員会

担当

健康づくりや多種の福祉施策、環境保全などに関すること。



◎杉田 勝典  
すぎた かつすけ



○ストラットン 恵美子  
えみこ



こやま ようこ  
小山 ようこ



すずき めぐみ  
鈴木 めぐみ



なかどい  
中土井かおる



まきた まさき  
牧田 正樹



ひららぎ てつや  
平良木 哲也



おおしま よういち  
大島 洋一

## 農政建設常任委員会

担当

農林水産業や道路、ガス・上下水道などインフラ整備に関すること。



まるやま あきら  
◎丸山 章



はしもと よういち  
○橋本 洋一



みやがわ だいき  
宮川 大樹



やまだ ただはる  
山田 忠晴



はたの かずお  
波多野 一夫



いづか よしたか  
飯塚 義隆



ふとう まさのぶ  
武藤 正信



しょうじ  
こんどう 彰治

## 議会運営委員会

担当

定例会・臨時会の日程や会議規則、委員会条例などに関すること。

◎宮川大樹 ○山田忠晴 木南和也  
ストラットン恵美子 宮崎朋子  
高山ゆう子 丸山章 小林和孝 上野公悦

## 文教経済常任委員会

担当

商工業、観光業などの施策や小中学校に関すること。



いけだ なおひろ  
◎池田 尚江



たかはし こうすけ  
○高橋 浩輔



きなみ かずや  
木南 和也



みやこし かおる  
宮越 馨



もとやま まさと  
本山 正人



こばやし かずたか  
小林 和孝



わたなべ たかし  
渡邊 隆



うえの こうえつ  
上野 公悦

## 広報広聴委員会

担当

議会だよりの編集、市民との意見交換会の企画などに関すること。

◎小林和孝 ○江口修一 木南和也  
鈴木めぐみ 高橋浩輔 宮川大樹  
山田忠晴 池田尚江 平良木哲也 石田裕一

## 特別委員会

### 災害対策特別委員会

担当

防災・減災への提言、原子力災害時の避難計画や津波対策の調査研究に関すること。

◎宮崎朋子 ○橋爪法一 牧田正樹  
本山正人 橋本洋一 波多野一夫  
渡邊隆 こんどう彰治

### 人口減少社会対策特別委員会

担当

人口減少の抑制や移住・定住、交流人口拡大等の調査研究・政策提言に関すること。

◎大島洋一 ○宮越馨 小山ようこ  
ストラットン恵美子 中土井かおる  
平良木哲也 栗田英明 石田裕一

### 通年・広域観光推進特別委員会

担当

通年観光及び広域観光を推進する上での課題の調査研究・政策提言に関すること。

◎安田佳世 ○上野公悦 高山ゆう子  
丸山章 滝沢一成 杉田勝典  
飯塚義隆 武藤正信

- 監査委員  
山田忠晴
- 一部事務組合等の議員
- ▽上越広域伝染病院組合  
石田裕一
- ▽上越地域消防事務組合  
ストラットン恵美子 宮崎朋子  
高橋浩輔 小林和孝  
杉田勝典 平良木哲也 石田裕一
- ▽新潟県後期高齢者医療広域連合  
杉田勝典

# 議会報告会・意見交換会を開催

～皆様のご意見をいかします～

特集  
1

令和4年度予算案を審議した3月定例会の審査内容を報告する「議会報告会」と、議会への市民参画の推進と市民意見を市政に反映させるための「意見交換会」を開催しました。

今回は、5月8日から12日にかけて、頸城区・三和区・清里区・高田区の4会場で開催し、47項目のご意見をいただきました。



## いただいた意見を紹介します！

- ▶ 市長が掲げる**目指すまちの姿**で、「希望あふれるまち」は具体的な内容が伝わってこない。
- ▶ **地域協議会**は、市民とかけ離れているのではないか。その役割などをわかりやすく示してほしい。
- ▶ U I Jターナー者の支援だけでなく、以前から**市内**で**頑張っている若者**に対しても支援できないか。
- ▶ **病児保育**の送迎対応は、子どもにとって負担になると思うが、現場の声を聞いて決めた制度なのか。
- ▶ 小・中学校の**G I G Aスクール端末**は、成長期の子どもが自ら考える機会を奪ってしまわないか。
- ▶ **病院の従事者**の給与増額も大事だが、人員を増やすことの方が大事だと思う。
- ▶ **市道改良**の点数制が適切な制度か委員会で検討し、委員会のチェック機能を果たしてほしい。
- ▶ 高田平野の東縁断層帯の**地震**の危険度を市長に伝え、ハザードマップで市民にも示してほしい。
- ▶ 人口減少対策特別委員会の提言書に関して、幼児教育や結婚、出産支援だけでなく、高校生や大学生が**地元に戻って来て地元のために貢献できるような支援**を考えてほしい。

いただいた意見はまだたくさん！  
意見に対する議員の回答など詳しくはこちら





- ご意見の取扱い
- 01 課題整理
  - 02 対応方針の決定
  - 03 対応していく

いただいたご意見を整理します。

ご意見一つ一つの対応方針を協議します。

各委員会で調査研究したり、行政に伝えます。

次回は11月に開催予定です！  
ぜひご参加ください！





上越市議会では、総務常任委員会及び人口減少対策特別委員会がそれぞれ取りまとめた提言書を、飯塚議長（当時）から中川市長へ提出しました。ここでは、その提言項目を紹介します。市議会では、今後も積極的に政策提言を行ってまいります。

## 総務常任委員会の政策提言

### ①地域自治・住民自治のあり方への提言

- ・今一度上越市の自治体憲法「上越市自治基本条例」に立ち返る事
- ・地域自治・住民自治の実現へ抜本的にシステムのあり方を検討する事
- ・それぞれの区の地域計画の策定を目指す事
- ・地域が参画する予算づくりを検討する事
- ・自治区単位のあり方を検討する事

### ②地域協議会のあり方への提言

- ・地域協議会は存続、その権限を維持する事
- ・地域活動支援事業を廃止する事
- ・自主的審議を優先的に行う事
- ・地元の課題を集約する仕組みをつくる事
- ・それぞれの区の地域計画の策定を目指す事
- ・公募公選制による地域協議会委員の選出方法を検討する事
- ・幅広い世代、女性の参画を図る事
- ・行政のサポートのあり方を明確化する事
- ・地域協議会委員のスキル向上を図る事
- ・地域協議会委員への費用弁償等のあり方を検討する事
- ・議会との協働を図る事
- ・複数の自治区に跨る市政運営のあり方を検討する事

### ③総合事務所のあり方への提言

- ・13区の総合事務所の機能集約及び機能分担を図る事
- ・すべての総合事務所において地域自治・住民自治を支える権能を強化する事

## 人口減少対策特別委員会の政策提言

### ①人口自然減対策について

- ・結婚・子育て祝い金制度の創設
- ・結婚貸付金制度
- ・縁結びボランティアセンター
- ・不妊不育治療・出産支援
- ・子育て情報提供体制の更なる充実
- ・子供年金制度

### ②人口社会減対策について

- ・上越ふるさと学習の推進
- ・リカレント塾（社会人版ふるさと学習）の実施
- ・企業誘致の推進
- ・スマート農業の推進

### ③人口減少社会の中でも豊かに暮らせる社会を目指す対策について

- ・ファミリーサポートセンターの充実
- ・農都市を概念としたまちづくり
- ・中山間地対策としての交通インフラ整備



委員間討議を中心に議論を重ねました

令和4年6月定例会

## 令和4年度一般会計補正予算をはじめとする35議案を審議

市長提出議案33件…全議案可決・承認

(補正予算案、条例改正案など)

請願1件…不採択

(上越市の子どもの心身の健全な成長、発達のための教育活動を求め、それにかかわる多様な考え方や選択を尊重することを求める請願書)

※関連記事10ページ

議員提出議案1件…可決

(30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2の1復元に関する意見書の提出について)

議案と審議結果は10・11ページまたは市議会ホームページをご覧ください。

HPはこちら



### 市長が提案した議案に対する質疑を行いました

**問** 空き家の利活用促進に向け、新たな空き家情報バンクのホームページの開設や、空き家の現地調査等に係る負担金を増額する補正予算案が提案されました。

**答** インパクトのあるページとなるような工夫は、**答** 検索性や操作性を向上させるほか、歴史あるまちなみの風情、四季の移ろい等、ビジュアルを駆使して魅力を発信する。**問** 空き家の現地調査に係る負担金を増額する経緯は。**答** 今年度から利活用可能な空き家の所有者へ情報バンクを周知しており、登録件数の増加が見込まれる。これまで以上に公益社団法人新潟県宅地建物取引業協会の皆さんにお願いすることになるため、必要な経費を補正することとした。

**問** 低所得の子育て世帯に対し、国の給付金に加え、市独自に児童1人当たり5万円を上乗せして支給する経費を増額する補正予算案が提案されました。

**答** 物価高騰は全ての子育て世帯にとって大きな負担である。全ての子育て世帯を対象としなかったのはなぜか。**答** 物価上昇は所得の少ない方々の生活への影響が大きいことから、市民一律の給付ではなく、「所得の少ない子育て世帯」へ給付金を支給することとした。国が実施する「所得の少ない子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金」を補完する施策として、市独自に対象児童1人当たり5万円を上乗せして合計10万円を支給する。

### 6月定例会のカレンダー

- 6月7日(本会議)
  - 市長提案説明
  - 総括質疑(1人)
- 6月8日～13日(委員会)
  - 4常任委員会
- 6月14日～17日(本会議)
  - 一般質問(23人)
- 6月20日(本会議・委員会)
  - 追加議案の市長提案説明
  - 総括質疑(2人)
  - 4常任委員会
- 6月22日(本会議)
  - 4常任委員長報告
  - 討論(4人)
  - 採決(35件)



# 常任委員会の審査

市長が提案した議案について  
議員が問い、市が答える



上越市議会チャンネルで  
審査の様子を配信中



## 総合計画

**総合計画**とは、市の最上位計画であり、これからの上越市のまちづくりの方向性を示すものです。現行の第6次総合計画が令和5年3月で満了することから、第7次総合計画の策定作業がスタートしています。今回の所管事務調査では、現在の取組状況や今後の進め方などの報告がありました。

**問**／各分野の2040年のありたい姿の方向性を、今回の計画にある程度具体的に入れてはどうか。

**答**／これまでに開催した、まちづくり市民意見交換や庁内での議論を通じて、上越市固有の豊かさを

## 地域協議会

**地域協議会**とは、地域の課題について、様々な立場の住民同士が、より良い解決策を導き出していくために話し合いを行う会議です。地域協議会に対して、地域自治推進プロジェクトの概要や令和4年度に取り組んでほしいことを説明した旨の報告がありました。

**問**／令和5年度に予算要求する事業は、9月末までに提案または意見書の提出が必要となり、地域協議会の負担が増大する懸念があるのではないか。

**答**／予算編成作業を考慮したスケジュールであり、9月末までには

### Point!

私たちが  
知っておきたい

4項目

次年度予算に向けた  
地域協議会からの提案

9月末まで

コロナワクチン  
に要する経費

3億円  
追加

農家の  
物価高騰対策

10アール当たり  
1000円

中小企業者等の  
コロナ経済対策

4.9億円  
追加



※イメージ

クールジャパンEXPO in NIIGATA  
2022年11月に朱鷺メッセで開催されます





市民生活の実態や実感、まちづくりへの意見等を把握するために開催された「まちづくり市民意見交換会」の様子

どのように捉え、守り、継承し、さらに生かしながら発展していくかという観点と合わせて、変えてはならない普遍的な考え方を整理した。そして今回、一つの方向性として基本理念である「上越市ならではの快適で幸せな暮らし」を提案した。今後は、この基本理念や将来都市像を踏まえて、各分野のありたい姿を整理していきたい。

何らかの提案をしてほしいと地域協議会に説明している。また、事務作業も地域協議会で行っていたが、依頼があれば事務局が行うことも考えている。

### ワクチン接種

問／子どもの新型コロナワクチン接種ができる医療機関は少ないが、予約は取れるのか。

答／開始当初は予約が取りにくかったが、現在はすぐに予約できる状態である。

### コロナ経済対策

問／コロナ禍で困難に直面している方の経済的な負担軽減を図るため、市独自の取組として、令和4年度住民税均等割のみ課税世帯に対して、一世帯当たり5万円を給付するため、所要額を増額する補正予算案が提案されました。

問／給付金の申請漏れがないようにするためにどのような手続きを考えているか。

答／課税情報を活用したプッシュ型の手続きを考えている。

### 農業経営所得安定対策

問／コロナ禍で厳しい環境に置かれている担い手農家の経営を支援するため、燃料や肥料の価格上昇分の一部を支援する制度を創り、営農面積10アール当たり1、000円を交付する経費を増額する補正予算案が提案されました。

問／交付対象者は、国の制度である経営所得安定対策に加入していれば審査を受けずに補助が受けられるのか。

答／経営所得安定対策に加入している農業者から提出された営農計画書により把握できる内容もあるので、なるべく手間をかけずに速やかに交付手続を進めたい。

### 景観づくり

問／景観づくり重点区域の考え方や今後の方向性はどうか。

答／良好な景観を守り育てる機運を高めてきたことが重点区域の指定につながったと捉えている。また、景観づくりの勉強会を始めていくところもあり、今後、重点区域の指定に向けた話し合いがさらに進むよう働きかけていきたい。

### クールジャパンEXPO

問／イベントに出展して、どのような発信をするのか。

答／デジタルサイネージや海外向けのパンフレットを用意して当市をしっかりと意識してもらえようという内容で展示をしたい。

問／期待する成果は。

答／市内の蔵元が新たな海外取引を行うきっかけづくりや、佐渡金山世界遺産登録を見据え、旅行エージェンツの獲得につなげたい。

### コロナ経済対策

問／コロナ禍で厳しい環境に置かれている中小企業者等の負担軽減を図るため、支援金を支給するための経費を増額する補正予算が提案されました。

問／これまで手続が煩雑で申請しにくいと考えていた中小零細企業や個人事業者でも、支援を受けられるような方法は考えているか。

答／申請については商工会議所や商工会、市の担当課で説明するほか、コールセンターを設け、相談を受けたいと考えており、手続で分かりづらいところがあれば丁寧に対応していきたい。

# 討論

討論とは、議案に対して賛成か反対かを表明するものです。

請願に対して

マスクに関する請願



## 3月定例会 文教経済常任委員会

請願第2号「上越市の子どもの心身の健全な成長、発達のための教育活動を求め、それにかかわる多様な考え方や選択を尊重することを求める請願書」について、委員会の審査の中で、委員から様々な意見があり、閉会中の継続審査とすることが賛成多数で決まった。

請願書の要旨はこちら



## 6月定例会 文教経済常任委員会

委員間討議を行い、賛成少数により、不採択にすべきものと決した。

## 6月定例会 本会議

賛成か反対かを表明する討論が行われた。

反対



久比岐野

厚生労働省や文部科学省は、マスク着用について基本的な感染防止対策は重要としながらも少しずつ緩和しているとしており、市教育委員会において請願事項を概ね実行または検証していることから反対する。ただし、市教育委員会においては、マスクができない子どもたちに対する理解、児童・生徒や保護者に対する適切な理解と対応に引き続き努めてほしい。

賛成



日本共産党議員団

市教育委員会では、国の指針に基づき状況に応じた柔軟な対応方針を示しているが、長期間に渡るマスク生活から、学校現場や地域等では、マスクをすることが当たり前、マスクをしないことが悪いという一面的な状況から脱しきれていない。マスク着用により不調になる子ども達も、楽しく学校等へ通えるような環境づくりを求める請願者の想いに賛成する。

賛成



政新クラブ

子ども達の実態はまだまだ国の通知とはかけ離れている。この請願は人権を求めているのに、不採択とすることはあり得ない。市民一人ひとりがお互いを思いやり、行動に移していくことが求められている。毎日の忙しい子育てや家事、仕事の合間を縫って2,334人の署名を集めたお父さん、お母さんに議会はどう報いるのかが問われている。

採決の結果、賛成 10 人・反対 21 人で不採択と決した。

○：賛成 ×：反対

みらい		創風		日本共産党議員団		公明党		会派に属さない議員											
栗田 英明	こんどう 彰治	高橋 浩輔	高山 ゆう子	中土井 かおる	宮川 大樹	本山 正人	波多野 一夫	小山 ようこ	宮崎 朋子	池田 尚江	武藤 正信	平良木 哲也	上野 公悦	橋爪 法一	山田 忠晴	杉田 勝典	宮越 馨	石田 裕一	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	-

議長（石田裕一）は採決には加わらない。

## 陳情を審査しました

「鈴木めぐみ上越市議会議員の辞職勧告決議を求める陳情書」「懲戒処分規定等の制定を求める陳情書」「市議会議員のコンプライアンス問題について市議会が議会基本条例の定めに従い説明責任を果たすことを求める陳情書」を議会運営委員会で審査し、3件とも不採択となりました。

# 5月臨時会と6月定例会の

## 審 議 結 果

### 5月臨時会

◎：全会一致

議案等番号	件名	審議結果
発議 1	通年・広域観光推進特別委員会の設置について	◎
同意 2	上越市監査委員の選任について	◎

### 6月定例会

◎：全会一致 ○：賛成多数 ×：不採択

議案等番号	件名	審議結果
予算 54	令和4年度上越市一般会計補正予算（第1号）	◎
条例	55 上越市市税条例等の一部改正について	◎
	56 上越市国民健康保険税条例及び上越市介護保険条例の一部改正について	◎
	57 上越市景観条例の一部改正について	◎
	58 上越市営住宅条例の一部改正について	◎
	59 上越市企業振興条例の一部改正について	◎
その他	60 字の変更について	◎
	61 工事請負契約の締結について（柿崎屋内水泳プール大規模改修 工事）	○
	62 工事請負契約の締結について（スポーツ公園野球場照明設備更新 工事）	○
	63 財産の取得について（ロータリ除雪車）	◎
	64 財産の取得について（ロータリ除雪車）	◎
	65 財産の取得について（ロータリ除雪車）	◎
	66 財産の取得について（ロータリ除雪車）	◎
	67 財産の取得について（除雪ドーザ 16t 級）	◎
	68 財産の取得について（除雪ドーザ 16t 級）	◎
	69 財産の取得について（除雪ドーザ 14t 級）	◎
	70 財産の取得について（除雪ドーザ 14t 級）	◎
71 財産の取得について（小形除雪車 1.3m 級）	◎	
予算 72	令和4年度上越市一般会計補正予算（第2号）	◎
その他 73	損害賠償の額の決定及び和解について	◎
報告	3 専決処分した事件の承認について（上越市市税条例等の一部改正について）	◎
	4 専決処分した事件の承認について（上越市国民健康保険税条例の一部改正について）	◎
	5 専決処分した事件の承認について（令和4年度上越市一般会計補正予算（専第1号））	◎
同意	3 上越市教育委員会委員の任命について	◎
	4 上越市公平委員会委員の選任について	◎
	5 上越市固定資産評価審査委員会委員の選任について	◎
諮問 1～7	人権擁護委員候補者の推薦について	◎
発議 2	30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に関する意見書の提出について	◎
請願 2	上越市の子どもの心身の健全な成長、発達のための教育活動を求め、それにかかわる多様な考え方や選択を尊重することを求める請願書	×

## 市長提出議案に対して

日本共産党議員団から議案第61号及び第62号に対する反対討論があった。

💡 議案第61号とは  
令和3年1月の大雪で損壊した柿崎屋内水泳プールの復旧と長寿命化を図るため、大規模改修を行う工事請負契約を締結するもの。

💡 議案第62号とは  
スポーツ公園野球場の経年劣化した照明設備を撤去し、LED照明設備に更新する工事を行う工事請負契約を締結するもの。

**反対討論** 議案第61号及び議案第62号は、3回行われた入札のいずれも同一業者が最低価格で応札を行うまねな現象が起こった。入札が公平公正に行われているか調査する姿勢が弱く、まねな現象であってもほぼ無条件に認めていることから反対する。



昭和50年に整備されたカルチャーセンター隣のスポーツ公園野球場

## 賛否が分かれた議案等

議案等番号	議案結果	合計		久比岐野							政新クラブ					
		賛成	反対	木南和也	安田佳世	ストラットン 恵美子	橋本洋一	大島洋一	渡邊隆	飯塚義隆	江口修一	鈴木めぐみ	牧田正樹	丸山章	小林和孝	滝沢一成
61	可決	28	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
62	可決	28	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
請願2	不採択	10	21	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○

ここが聞きたい!

# 一般質問



議員が市の行政全般にわたって、市長・教育長等の方針、見解、事実の説明、報告を求めるものです。  
今定例会では23人が質問しました。  
※本文は質問者が執筆したものを編集しました。

QRコードをスマートフォンやタブレットで読み取ると、その議員の一般質問の動画が視聴できます。



学校の働き方改革  
部活動の改革を！  
こんどう彰治（政新クラブ）



問／学校の部活動の地域化をどう進めるのか。  
答／国は、令和5年度から休日の部活動の地域移行を実施するよう進めている。市では、改革の概要や現状を総合型地域スポーツクラブやPTA連絡協議会などに説明してきた。小学5、6年生、中学生、保護者に「部活動改革だより」を発行し、改革の概要を知らせている。7月に開催予定の（仮称）上越市部活動改革に係る検討委員会で、関係団体と協議・調整を図る。  
問／クラブ参加経費の補助や減免制度は。  
答／国の動向を注視しながら、補助制度や減免制度などを慎重に検討する。  
問／スポーツ団体公認のコーチ資格がないと、大会参加を認めない場合が考えられるがどうか。  
答／日本中学校体育連盟が主催する全国中学校体育大会では、そのような制限がないため、地域移行を見据えた参加要件が示される中で、内容に応じて対応していく。

## 焼失した南葉山荘の再建を

問／火災による災害共済金の支払いはあったか。  
答／本年4月に約1、132万円が入金された。  
問／入金された災害共済金で施設を再建できるのではないか。  
答／稼働率が焼失前の3年間で20%と低く、既存の学習休憩棟で補える。再建の考えはない。



少子高齢化等の中で  
今後の自主防災組織は  
橋本洋一（久比岐野）



問／人口減少・少子高齢化・コロナ禍などにより、地域コミュニティの維持が危惧されている中、今後の自主防災組織のあり方についての考え方はどうか。  
答／コロナ禍の影響等により、活動が停滞している組織が見られるほか、特に高齢化が著しい中山間地域の自主防災組織などでは、活動の継続も懸念される場所である。

市では、防災プロジェクトの中で、停滞した自主防災活動の再開を促すとともに、避難行動要支援者の確実な避難体制の確保を進めている。また、活動の継続が危ぶまれる組織の実態や事情を聞き、近隣の自主防災組織との相互連携や協力度体制の整備などに努めていきたい。

近年、激甚化や頻発化する災害に対応するため、市民自らが災害に備える「自助」の取組と、地域住民相互のつながりによる「共助」の取組が大切になる。市としては、防災プロジェクトの取組を通じて、地域における災害対応力の強化に努めていきたい。



防災訓練の様子



星の清里協同組合  
過疎地の活性化を！  
杉田 勝典（公明党）



問／星の清里協同組合に期待する効果は。  
答／人材育成の重要な拠点であり、農地保全や地域の農業振興、活性化に期待している。

**外国人市民の労働実態と多文化共生の取組は**

問／外国人労働者の労働実態や課題は。

答／現時点で大きな課題はないが、就労条件の良い大都市圏を希望する傾向や、労働力不足等による国際的な人材獲得競争が起こりつつある。

問／市民と外国人市民との多文化共生の取組は。  
答／市民プラザに上越市国際交流センターを設置し、様々な取組を行っている。外国人市民の増加に伴うニーズの変化を捉え、多文化共生の推進を図っていく。

**移動市長室や市民と市長との対話集会の成果**

問／事業の成果や要望等への対応は。

答／市民の切実な声や提案から、地域課題やまちづくりの率直な思いが聴けた。施策に反映できる提案等は、関係部局で検討する。今後も対話の取組を継続したい。

**北陸との連携で幅広い通年観光を目指す**

問／北陸との連携や相互観光戦略も必要では。

答／既に北陸等と広域連携を図っている。引き続き、様々な広域連携により観光振興を図る。



上越市を日本海側最大の物流拠点に！  
高橋 浩輔（みらい）



問／物流を取り巻く環境変化への対応はどうか。  
答／当市は複数の広域交通の結節点である。その機能の維持向上のため、直江津港と上越ICを結ぶ都市計画道路の整備や直江津港のカーボンニュートラル化、※モーダルシフトに対応するためのJR黒井駅の利便性向上等、企業と行政が連携し物流環境の変化に柔軟に対応していく。

**物流環境の変化により、輸送手段を鉄道に変更する動きが加速している。貨物輸送を強化して通過料収入を増やすことで、えちごトキめき鉄道の収益構造を強化することはできないか。**

問／物流環境の変化により、輸送手段を鉄道に変更する動きが加速している。貨物輸送を強化して通過料収入を増やすことで、えちごトキめき鉄道の収益構造を強化することはできないか。  
答／現在、日本海ひすいラインには1日10往復の貨物列車が運行している。貨物を増やしていく取組は大切だが、ダイヤの関係等様々な条件や制約があり、現状では難しいと考える。

問／将来世代に残す「資産」として、上越市を「日本海側最大の荷物の集積地・物流拠点」として整備し、地域経済の更なる活性化を目指すべきと考えるがどうか。  
答／時代は大きな変化が起きている。様々な変化の中で、できるだけ新しい情報を得ながら、産業や文化がどこに向かっていくのかを見据えつつ、物流についてもその流れの中で考えていかなければならない。「物流拠点の整備」も心に留めながら政策を発展的に考えていく。

※モーダルシフト…環境負荷の少ない輸送手段へ転換を図ること。



防犯カメラ設置で子どもの安全対策を  
ストラットン恵美子（久比岐野）



問／これからの人口減少社会で子どもを見守るため、通学路や公園にカメラを設置する考えは。  
答／設置には、プライバシー保護や犯罪行為そのものを直接的に阻止できない課題がある。防犯には、地域で見守り、支え合っていく体制の構築が有効であり、現時点で設置の考えはない。

**修学・教育旅行を通じた観光振興**

問／当市への修学・教育旅行の受入れ状況は。

答／十日町市と連携している越後田舎体験事業では、民泊や農業体験を提供しており、令和3年度は35団体、約2,600人を受け入れた。

問／広域連携による課外学習提供の有効性をどう捉えているか。また、当市への修学・教育旅行に広域連携を取り入れ、提案していく考えは。  
答／津南町や妙高市の宿泊施設を利用した大規模校の受入実績がある。十日町市との取組を基本に、更なる連携の必要性を調査・研究する。

問／社会課題を取り入れたスタディツアーや産業振興を学ぶ教育旅行等は、通年観光を掲げる当市において観光振興のヒントになるのでは。  
答／学習指導要領の改定で、今年度、新たに探求学習プログラムを商品化している。当面は農業・雪国生活体験などを通じた学びを主体に、市内の学校を含め、広く受入れを進めたい。





**食料自給率向上に向け  
た農業施策の取組を**



池田 尚江（創風）

問／世界的に穀物の流通が不安定化する中で、今後の食料自給率向上に向け、食料生産基地である本市としてどのような農業施策に取り組んでいくか。

答／特に先進諸国の中でも食料自給率の低い我が国において、食料の安全保障は重要と認識している。本市は食糧生産基地であり、水稻作付面積は全国第4位、食味「特A」の一大産地である。作物では食用米以外に、飼料米や小麦に替わる米粉需要への対応、平場の大豆、中山間地域では「ソバ」、そして園芸との複合経営など、本市の食糧生産能力を維持・向上させ、食料自給率の向上に寄与していきたい。

**中山間地域の農地保全に向けた支援を**

問／中山間地域において人口減少、特に高齢化に伴う農業後継者不足の問題が進む中で、近い将来、守る農地と自然に戻す農地を選択しなければならぬ時期が来ると思うが、市の考えは。

答／中山間地域を抱える農業者が参画するワーキングショップ「みらい農業づくり会議」で、後継者の確保や、作物を生産する農地と保全する農地の明確化、農地保全の方法等を地域と一緒に検討する。中山間地域の農地保全は、国土の保全や水源涵養に重要であり、地域の将来像実現に向け、国の施策も活用して支援していきたい。



**eスポーツで交流人口  
大・経済効果の向上！**



小山 ようこ（創風）

問／eスポーツは、大会やイベントの開催による集客拡大が期待される。本市においても交流人口の拡大や経済効果を高めていくため、eスポーツの普及に取り組む必要があるが、市政において活用する考えはないか。また、eスポーツに関する部署を設置してはどうか。

答／国内eスポーツの市場規模は年々拡大し、2024年には200億円を超える規模になるとの報告もある。本市においても、JリーグD.A.W.Nの運営事業者が、eスポーツ大会の開催を検討しているほか、市内の高校がeスポーツを取り入れた部活動の開始を予定するなど、eスポーツの普及に向けた動きがある。交流人口の拡大や地域経済への波及効果なども期待できることから、引き続き先進地視察などによる情報収集を進め、オンラインのみでも完結するeスポーツの特性も踏まえながら、行政におけるeスポーツの導入やその手法、eスポーツに関する部署の設置について研究していく。

**男性用トイレにサニタリーボックスの設置を**

問／病気が原因で尿漏れパットを使用している方などのために、公共施設の男性用トイレにサニタリーボックスを設置してはどうか。

答／安心して外出し、捨てる場所に困らないよう、利用者の多い施設から順次設置していく。



**市道の修繕について問う**



山田 忠晴（公明党）

問／市道の修繕要望の件数を聞きたい。

答／令和3年度は市全体で1,099件である。問／小規模な修繕等では、どのような流れで積算や見積り、施工までを行っているか。

答／通常の修繕については、2者以上から見積書を徴収した上で随意契約により請負者を決定しており、3週間程度の事務手続を経て準備が整い次第、施工に着手している。

**マンホール蓋の更新に新技術導入を**

問／他市では、マンホール蓋の更新に新技術を取り入れ、施工時間の短縮と1日当たりの施工数を多くすることにより、市民生活への負担軽減と業務の効率化を図っている。本市における新技術に対する考えを聞きたい。

答／昨年度から高田地区において、試験的に新技術導入の取組を始めた。市としては、マンホール蓋の更新に当たって、交通規制による住民生活への影響に配慮しながら、従来工法と新技術工法との優位性や費用対効果など、当面の間、検証していきたいと考える。



高田城址公園の桜、蓮を  
背景にハクチョウとコク  
チヨウをデザイン  
泳いでいる



不妊治療助成を20万円に  
拡大し子育て全国一へ  
宮川 大樹(みらい)



問／本年4月から体外受精等の生殖補助医療が保険適用となり、県の助成が廃止となった。個人負担が増えているケースがあるが、改善策は。

答／市内の不妊治療実施医療機関での実態を把握し、課題等を整理した上で、次年度から実状に即した助成制度となるよう検討を進める。

問／当市の不妊治療助成は、2分の1の補助率で上限額10万円だが、来年度以降もこの制度を残しつつ、さらに、子育て全国一を目指し、上限額を20万円にすべきと考えるがどうか。

答／調査を行った上で、今まで以上の助成制度を準備できるよう努力したい。

問／市内企業等で働く市民が、不妊治療休暇を取りやすい環境を整備する制度を設けることが必要と考えるがどうか。

答／国は「両立支援等助成金」等の制度により、企業の意識啓発と休暇の取得促進に取り組んでいる。市では、これらの制度を企業に周知し、不妊治療休暇が取りやすい環境の整備を図る。

問／市では、現在どのような婚活支援に取り組んでいるか。

答／取り組んでいない。

問／新潟県の婚活支援事業において、上越市の成婚数が9人と少ない。市としても当事業に協力して成婚数を伸ばすべきと思うがどうか。

答／引き続き、県の事業に協力していきたい。



市長が考える上越市の  
未来ビジョンを問う  
木南 和也(久比岐野)



問／上越市は、「デジタル田園都市国家構想」に対して、どのような戦略を立てているのか。

答／当市にマッチする企業の絞り込みなど、新たな誘致手法や当市の魅力を踏まえた他市との差別化に関する戦略を検討している。

問／上越妙高駅周辺の整備について、積極的な開発が必要であると考えられているがどうか。

答／オフィスビルの建設に関して、入居する企業の誘致や建設に対する支援を行っている。官民が連携してそれぞれの役割を果していきたい。

問／えちごトキめき鉄道について、市民の移動手段を維持していくために、積極的な関わりが必要であると考えられているがどうか。

答／「トキ鉄再生協議会」において、今後の抜本的な経営改善や支援のあり方等に関する協議を継続していく。県や他の沿線市と連携し、国に対して支援の強化拡充を強く求めていく。

### 直江津地区のまちづくりの推進を

問／直江津地区のまちなか居住推進事業について、今後の予定を聞きたい。

答／3つの町内会をモデル地区に選定し、住民を対象としたワークショップを実施している。また、各小学校と連携し、まちづくりに関する出前授業等を実施している。今後も、住民と市が一体となった協働のまちづくりを進めていく。



通年観光と寺町の街並  
み整備・保存の取組は  
宮崎 朋子(創風)



問／寺町の住宅の色が気になるという令和3年12月定例会における市長の発言の意図は何か。

答／世界遺産になっている観光地はどこも景観に配慮している。色調を整えることは重要である。まだ住民全員に話をしていくわけではない。

問／そこは丁寧に進めてほしい。景観は建物の色だけでなく、自然の色、まちの営みから作られるものと認識している。長い時間がかかると思うが、通年観光プロジェクトのスケジュールはどう考えているか。

答／9月頃に示していく。景観保全は以前、大町で取り組んだやり方を考えている。

問／観光地化することで、三方良しになることが重要である。寺町は、寺社と住宅が混在する地域で、政教分離の観点もある。また、高齢化で維持管理もままならない中、空き家の課題もある。寺院群を素晴らしいというのであれば、そこをどう考え取り組んでいくのか。

答／寺社仏閣については立ち入れないが、空き家などは皆さんと話し合っていきたい。

### 地域の防災意識の向上に向けての取組

問／市民一人一人が取り組めるマイ・タイムラインの周知はどうやっていくか。

答／作成の意義や仕方、必要性等について、積極的に自主防災組織や市民等に呼びかけていく。



**原発は県の最重要課題  
政策的なブレがないか**  
上野 公悦（日本共産党議員）



**問**／花角知事は、県知事選挙において原発再稼働問題の争点化を避けた。東京電力のあつてはならない不祥事や事故などが連続して起きている。ロシアのウクライナ侵略と原発施設への攻撃など原発の危険性が露呈された。今後4年間の知事の任期中に、必ず再稼働の準備が整う。原発問題は、県が直面する最大課題だ。こうした状況において、市長は、花角知事と方向は同じだとして公然と応援した。市長の政治姿勢というよりも政策的なブレがあるのではないか。

**答**／県政における様々な課題が山積している中、原発問題は、有権者が望む数ある政策・争点の一つであると認識している。花角知事は、3つの検証を進め、結果が出るまで再稼働の議論をしないと言っている。柏崎刈羽原発では、現在原子力規制庁による追加検査が行われているところであり、東京電力が法規制上、原子力発電所を運転しうる事業者としての評価がなされなければ、再稼働の議論にならないものと考ええる。

**選挙候補者への応援態度が矛盾しないか**

**問**／参院選挙の候補者への関わり方は、衆院選挙で野党候補者を応援したことと矛盾しないか。

**答**／衆院選の際は一個人としての対応だったが、現在は市長としての立場を踏まえ、積極的に国政選挙に関わることはしない。



**通年観光？  
寺町、どうしますか。**  
滝沢 一成（政新クラブ）



**問**／通年観光推進に向け、寺町を拠点としているが、どう整備するか将来のあるべき姿を示すことが必要だ。地元と話し合いを始めるとのことだが、しっかりと意見交換してほしい。

**答**／寺町の魅力を地域の方々で磨き上げ、寺町ならではの景観、魅力づくりに取り組んでいく。地域と将来像を共有し、具体的な整備内容等を検討し、できることから進めたい。

**問**／寺町には、寺町まちづくり協議会、浄興寺大門通りまちづくり協議会をはじめ、高田寺町モミジの会など自主的に整備に携わる団体がある。しかし、大門通り協議会が街中の歴史的な石碑を整備する地域活動支援事業を提案したところ、ほぼ却下された。政教分離への懸念が理由だそうだが、寺町の景観整備はおおむね寺社に関わってくる。今の見解では何もできない。

**答**／寺社も観光資源の一部、どのようなことができるか考えていきたい。

**問**／すでに20年近く凍結されてきた高田駅西口を設置すべきだ。高田駅西口の建設は、通年観光への覚悟と方向性を示す象徴となる。今こそ整備する時が来た。

**答**／かつて整備効果を検証し、効果が著しく低く整備は厳しいとしたが、今、まちなか居住や通年観光等を推進しており、駅の利用状況の変化等を注視しながら検証していきたい。



**ブックスタート事業を  
再開して**  
大島 洋一（久比岐野）



**問**／ブックスタートとは、絵本を開く楽しい体験と絵本をセットでプレゼントし、抱っこぬくもりの中で絵本を読んでもらう心地よさや嬉しさを全ての赤ちゃんに届ける活動である。当市では、平成14年度から23年度まで、3か月健診の際に実施していた。事業終了の理由は何か。また、再開できないかを聞きたい。

**答**／子育てに関する不安を抱える保護者が増加している状況に対応するため、発達段階に応じた具体的な育児の方法に関する講話や相談、保護者同士の交流を充実させることとし、本事業を終了した。効果的な取組を前向きに検討する。

**問**／ブックスタート事業終了後の経過とその現状を聞きたい。顕著な効果の実例があり、本事業を再開すべきではないか。

**答**／市立図書館では、この間子どもたちが本に出会い、親しむ機会を提供したり、誕生後に読み聞かせて欲しい本の一覧を渡しており、一定の成果が出ている。取組を継続しつつ、より効果的な取組を積極的に検討する。

**直江津駅、黒井駅駐輪場の強風・雨対策は**

**問**／両駐輪場の強風・雨対策が必要ではないか。

**答**／「自転車等駐車場設置技術の手引き検討調査報告書」を参照し、整備・管理している。現段階では、屋根付きに改善する考えはない。



「運動部活」改革  
はじまります！

中土井 かおる（みらい）



問／国は、生徒の多様なニーズに応じた運動部活動のあり方改革を打ち出し、障がいのある生徒や競技スポーツに抵抗がある生徒等も、楽しく体を動かし体力向上を図れるような「ゆる部活」を推奨している。子どもの時期に体を動かす楽しさを体感することで、将来にわたり運動習慣が身につくことも期待されると考えるが、当市の方針はどうか。

答／各中学校で学区の実態に応じて、生徒や保護者の部活動へのニーズ調査をしている。また、学校単位で部活動のあり方を検討している。それぞれの中学校で部活動の見直しの動きが出た際に取組を支援していく。



市内の全地区に住民組織が必要では？

問／当市には、地域自治区ごとに地域の課題を解決するための住民主体の組織があるが、高田・春日・直江津区にはない。市で住民組織の立上げ等を支援する考えはないか。

答／地域で自発的に話し合いが始まるのが肝要と考えており、住民から意向が寄せられた際には、情報提供や助言をしていく。また、今年度から取組を始めた「地域自治推進プロジェクト」の中で、地域の活力の向上に向けて、住民組織が担う役割なども議論し、支援や組織のあり方等についても検討していく。



こども発達支援センター  
分室の見直しを

丸山 章（政新クラブ）



問／頸北4地区にあるこども発達支援センター分室について、市民の利便性及び公正・公平の観点から、集約先総合事務所の浦川原・柿崎・板倉区エリアに1か所ずつ分室を置くべきでは。答／頸北の分室の統合に着手した経緯はあるが、整理ができていない状況である。現在、4分室以外の要望が出ておらず、新たな分室の設置は考えていないが、分室の配置を検討していく。

仮称「ファミリーヘルプ児童園」の設置を

問／就学前の子どもはファミリーヘルプ保育園に預けられるが、小学校入学後は利用できず、保護者の負担が増す。小学校卒業までの継続した支援策として、児童園を設置すべきでは。答／直ちに開設する考えはないが、現在検討を進めている「子育てプロジェクト」で、関係機関等と連携し、研究を行っていききたい。

公の施設（温浴施設）の活用策は

問／現施設を市民（地域）と行政との協働の下に、目標設定を含め活用策を策定した後、10年程の猶予期間を設け、市民（地域）主体の地域づくりを推進することが重要と考えるがどうか。答／民営化が困難な場合も、一方的に廃止せず、真に必要な施設機能が維持されるよう、他用途での活用など、地域と協議を重ねていく。



児童虐待数の増加を  
食い止めるために

高山 ゆう子（みらい）



問／当市における過去5年間の児童虐待数は年々増加しているが、市としてどのようなように分析し減少すべく対応を行ってきたのか。答／児童虐待は重大な人権侵害であり、子どもの心身の成長に深刻な影響を及ぼす。これまで様々な関係機関と連携し、支援の協議や研修等に取り組み、早期発見と対応につなげてきた。そのため、虐待と認識しにくい子どもの様子に気付き、本人から話を聞くなど、関係機関へ連絡する体制が確立されてきたことが増加の要因とも分析している。



問／年齢別に見ると、3歳以下の子に対する虐待が最も多い。未然防止策として、虐待してしまう親に対し、心のケア等の支援を強化するつもりはないか。例えば、産後支援の中に、親の心理的なケアとして、無料で受けられる臨床心理士等の派遣相談を取り入れることはできないか。答／親への支援として、助産師と保健師が産後ケア訪問を行っており、充足していると考える。

問／今後、子どもの虐待を無くす方策はないか。答／今後も社会全体で意識の共有を図り、関係機関と連携し、適切な支援と市民啓発を行い、粘り強く虐待防止に取り組んでいく。





医療的ケア児への支援の充実を！  
牧田 正樹（政新クラブ）



問／医療的ケア児の人数と入園・入学の状況は。  
答／令和4年4月1日現在で35人おり、うち保育園児は7人、小中高等学校の児童・生徒は17人、それ以外の11人は在宅等となっている。

問／どのような福祉サービスを利用しているか。  
答／児童発達支援事業や放課後等デイサービス、短期入所、訪問入浴など18人が利用している。

問／医療的ケア児対応の看護師が不足している。市で採用し、保育園や施設に派遣、またはナーバンクの創設などはできないか。  
答／看護師は医療機関や高齢者施設でも不足しており、人材確保の手立てを考えていきたい。

問／家族はケアに忙殺されて申請手続きが困難である。相談員に申請の代行や補助をしてもらうことはできないか。  
答／保健師等が家庭訪問を行い、相談員につなげている。申請が難しい声もあり、「医療的ケア児版福祉ハンドブック」の作成を検討している。

問／今後、医療的ケア児の施策を進めていく上で、市民の理解が重要である。医療的ケア児のことを知ってもらう啓発活動をしてほしい。  
答／医療的ケア児に限らず、障害児・者全般の理解を広めていく取組を検討していきたい。

※医療的ケア児は心身の機能に障害があり、呼吸や栄養摂取、排泄などの際に、医療機器（人工呼吸器など）やケアを必要とする児童



市民と市長の対話を市政にどう反映するのか  
安田 佳世（久比岐野）



問／今年度実施している移動市長室及び市民と市長との対話集会の目的は。また、市長は市民との対話を実施し、どのように考えているか。  
答／地域課題に対応するため、現場に足を運び、直接話を伺い、市長自身の考えを伝えるために実施している。現場に近いところで、暮らしへの不安や市政への要望、意欲に満ちた提案をお聴きし、新たな気付きや学びにもなっている。今後も精力的に市民との対話を重ねていきたい。

問／把握した地域の課題や市政への要望・意見等はどのように市政運営に反映されるのか。  
答／項目に分け、その場でお答えしたり、調査等が必要な事案は後日担当課からお答えしたりしている。施策等に反映できる提案等は、関係部局における検討の後、取扱いを協議する。

### 少子化の中、保育園の再配置等に係る計画は

問／上越市保育園の再配置等に係る計画の第4期の策定に向けた検討状況は。  
答／今年度は、第3期計画で実施した4園の民間移管等の取組の課題や対応の検証、市内事業者の民間移管に関する意向調査、公立保育園の保護者へアンケート調査を行い、保育園の適正配置に係る方向性を定める。令和5年度に市全体の保育体制を検討し、適正配置の具体的な検討、関係者との調整を行い、計画を策定したい。



地域自治区はこれまでどおりの28区か  
栗田 英明（政新クラブ）



問／議会は市長に地域自治に関する提言書を提出した。現在の地域自治区制度の継続を前提としたものである。市長は地域自治改革を進めているが、現在の28地域自治区は継続されるか。  
答／地域自治の推進は、プロジェクトを設置し検討している。市民から地域自治区の合流要望がないので、現時点では28区と考えている。

### 審議会の市民公募枠が少ないのではない

問／各種審議会には公募による「市民委員」枠が設定されている。市民参画という自治の基本原則に則ったものであるが、共創の推進のためにも公募枠を増やしてはどうか。  
答／市には審議会の設置基準があり、専門性等を考慮しながら公募委員の定数を決めている。委員の確保に苦勞しており、公募枠増は難しい。

### 自治基本条例の進捗管理が必要では

問／今年度は自治基本条例見直しのための検証委員会が設置される。5年前は、行政も「自治基本条例に基づいた取組状況」を公表したが、今回はそれに加え、進捗を調べてはどうか。  
答／5年ごとの自治基本条例の検証は、社会経済情勢に照らした見直しである。各部署では今回「取組状況」を公表すべく準備をしているが、進捗管理は現時点では予定していない。



各病院の機能と規模の維持を  
平良木哲也(日本共産党議員団)



問／上越市内の現在の救急医療体制について、少なくとも2次医療まではしっかり維持するという姿勢に立ってほしいと考えるがどうか。  
答／現時点では、現状のまま維持するということを基準にしながら考えている。

問／一番の問題は医師不足だ。医師が足りないからそれに合わせるという考え方が根底にあるような県や国には、はっきりと違うと言っているがどうか。  
答／県は、研修医や専門研修を増やして、医師を増やす方向で進んでいるので、それを支援しながら、医師確保の努力を続けている。

### 物価高騰対策に力を

問／物価高騰の状況の中から市民の家計を救うために、給食費引下げのような思い切った施策の実施を検討できないか。  
答／当市は、一般会計の歳入として、保護者からの給食費を入れており、材料費が上がれば、一般会計で補正していく。給食費の保護者負担を下げると一般会計の歳入が下がるが、そこへ国の交付金を充てると会計の取扱いとしてどうかということもある。

問／小手先ではなく、政策的観点で聞いている。  
答／所得の低い方々には、給食費は全額補助させていただいている。



よしかわ杜氏の郷の民間議渡は地元最優先で  
橋爪 法(日本共産党議員団)



問／小田副市長は、令和3年12月の所管事務調査で、「民間議渡に当たっては、設立した経緯を踏まえ、まずは、地元企業への譲渡の可能性を探って参りたい」と言われた。間違いないか。  
答／(小田副市長) そのように発言したと記憶している。

問／ここにマンガ「夏子の酒」がある。吉川の住民はかつて、何百人も酒造りの出稼ぎに出かけた。一年の半分、父ちゃんがいなかった。吉川は、春を待つ気持ちがあるがものすごく強い町だった。春は父ちゃんが帰る季節、家族が一つになる季節だ。そういう思いをずっと抱きながら、これまでまちづくりに取り組んできた。この吉川の思いを最大限尊重して取り組んでいただきたい。  
答／(中川市長) 私も「夏子の酒」を持っている。この物語を読むと、涙が出てくる。地元の皆さんの気持ちがこういところから出ているのだからと想像しながら考えている。その辺の感情も理解しながら、立ち向かっていくことを橋爪議員にも分かっていただければ幸いだ。



人口減少社会対策に向き合わない中川市政！  
宮越 馨(無所属)



問／人口減少社会の放置は、国も地方も減じる。議会が提出した人口減少対策に関する提言について、どう受け止め、実行に移すか。  
答／議会からの提言内容について、私の考えと方向は一致している。

問／方向が一致しているならば具体的に何から取り組んでいくつもりか。  
答／子育て関係の政策に取り組みたい。

問／具体的でない。提言に「子供年金制度」の実施が含まれている。令和3年12月議会では、制度の実施に先駆けて行うべき子供年金のニーズ調査を検討すると答弁したが、何故予算化しなかったのか。直ちに予算化すべきだ。  
答／国の制度がないから実施しない。

問／国の制度がないからということとは、市は国の下請け機関なのか。良い政策なら地方から取り組むべきだ。ニーズ調査の拒否は議会軽視だ。  
答／人口減少への抑止効果があるとは思わない。

問／長引くコロナ禍での市内経済は冷え切っている。急激な原油高・物価高に対し、市民一人ひとりに市独自の対策として、直接現金などの値上げ緩和特例給付金を、また、小規模零細家族経営者へ1店舗当たり10万円を支給すべきではないか。  
答／今後も感染状況や市内経済の状況を把握し、機を逸せずに対策を講じていく。

発行日／令和4年7月25日  
発行／上越市議会

〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3  
編集／広報広聴委員会  
TEL 025・520・5805

### 編集後記

先日、早稲田大学マニフェスト研究所の「議会改革度調査2021」において、上越市議会は、全国総合25位の栄誉に輝きました。しかしながら、個別分野の「住民参画」では全国61位でした。市民と議会をつなぐ広報広聴委員会の役割をしっかりと果たすことで、総合ベストテンを目指します。

広報広聴委員会 小林 和孝

### 次回の定例会は

9月1日(木)～

常任委員会

9月5日(月)～14日(水)

一般質問

9月16日(金)～22日(木)

※日程が変更となる場合は、市議会ホームページ等でお知らせします。